

## 1. 令和元年度自己評価・学校関係者評価結果

(4段階評価：4:適切、3:ほぼ適切、2:やや不適切、1:不適切)

評価カテゴリー	自己評価	学校関係者評価
I. 教育理念・目標 (小項目 5 項目)	評価 3.4 県内に看護大学が2校開校したこともあり、学生確保が難しい状況となっている。当校が看護師教育を継続するための特色を出すことや地域に密着した看護師確保に向け母体病院・県内機構病院と連携し、検討を行っていく。 保護者に対しても、入学式・戴帽式後に保護者会を開催し説明を行っている。	評価 3.4 学生募集は、少人数制や面倒見のよさ以外の学校の強みとして訴える材料を増やすことが大切である。大学と比べて専門学校の利点や卒業生からの意見を聞き、具体的な内容を提示することで学生募集につながっていくと考える。
II. 学校運営 (小項目 8 項目)	評価 3.7 国立病院機構・母体病院の規程に則って学校運営が行われている。 HP への情報公開は適宜実施している。PC の Windows10 への移行に伴い学籍簿管理システムを次年度更新する予定である。学校活動について HP に適宜公開しているが、HP の更新は担当教員の業務の状況によりタイムリーにアップできていない時がある。	評価 3.7 近年、紙媒体よりも電子媒体から情報を得る学生が増えている。そのため、特に学生募集に関わるものは遅れずに掲載が必要である。また、興味関心を持った生徒は、継続して HP を閲覧するため、変更のない HP は、学校への興味関心を低下させる恐れがあるため、他業務と重複していると難しい状況ではあるが、できるだけタイムリーにアップしていくことが大切である。
III. 教育活動 (小項目 16 項目)	評価 3.3 研究授業の開催を広報し、他校の教員との意見交換をするとともに、自校教員間でも研究授業の参観、演習のサポートをすることで教育方法の工夫や開発のアイデアを出し合い進めている。 キャリア教育の一環として、系列病院の認定看護師から資格取得までの方法や役割などを学べる特別講義を組み込んでいる。 教員は研究助成金を受け研究活動に取り組んでいるが、本年度の発表は0件であった。次年度は発表に向け計画的に取り組んでいく。	評価 3.3 研究助成金を受け活動していることや最近の文科省の状況から、研究発表だけに終わらず論文として掲載することまで視野に入れた活動が必要である。 専門分野の学会があり、学会誌が発行されているという道筋ができてきていることから、論文として発表することにより、教員の業績として認められ、身分保証につながっていく。
IV. 学修成果 (小項目 5 項目)	評価 3.8 国家試験合格者は全員看護師として就職している。令和元年度国家試験合格率 97.3% 過去4年間 100%を達成していない。1年次から計画的に国家試験対策を実施しているが、年々入学時の入試点数も低下しており、再試験者の人数も増えてきている。そのため、入学初期より学生個々に合わせ、学習方法から具体的に支援していく必要がある。 退学者は3名。1年生1名は入学直後、2年生2名は休学後の進路変更である。その都度、本人・保護者と面接を実施し個々の状況に合わせて指導を行っている。 卒業後のキャリア形成把握は行っていない。	評価 3.8 卒業後に就職先へ卒業生の動向や人間力などについてアンケート調査を実施することで、教育内容が活用できているか、卒業生本人への適正な就職先であったかなど評価が行える。また、アンケート結果より、教育内容の見直しや就職支援にも活用することができる。

<p>V. 学生支援 (小項目 10 項目)</p>	<p>評価 3.9</p> <p>1 年次から計画的に面接実施。就職ガイダンスの実施。アンケートも活用し進路を決定できるよう支援している。</p> <p>学校カウンセリングを月 2 回設定している。メールでも相談ができる体制は整えている。</p> <p>令和 2 年度から開始する高等教育就学支援新制度の対象機関として認可された。今後該当する学生の手続きを進めていく。</p> <p>学生のカリキュラム満足度調査結果を受け、保健室の整備や学習室の整備を実施した</p> <p>社会人入学生は全体の 1 割弱である。</p>	<p>評価 3.9</p> <p>学生全体的にメンタル面が弱くなってきている。</p> <p>説明しても家族の理解が得られない場合もあるため、カウンセリングの体制を整えておくことは大切である。</p> <p>社会人入学生が少ないとのことではあるが、社会人への門戸が開かれており、受験情報として学校案内や HP に明示されていれば問題ないと考える。</p>
<p>VI. 教育環境 (小項目 3 項目)</p>	<p>評価 3.3</p> <p>防災に関する規定は整備している。避難訓練は年 2 回実施しており、避難器具の更新を実施し、1 年生を中心に避難器具の使用方法について説明を実施している。10 月の台風災害時に全員に連絡網で被災確認がスムーズに実施できた。また、災害時の学生の通学路把握のため、学生が利用する駅などの路線マップを作成した。今後、緊急時の連絡網を整備するためにオクレンジャーを導入予定である。現在、学校に備蓄体制は整えられていない。在校時に災害が起こった場合、自宅に戻れない学生もでてくること予測されるため、日頃の備えについて注意喚起を行っていく必要がある。</p>	<p>評価 3.3</p> <p>災害発生時の連絡網はすみやかに全体連絡をいれることができるため、活用されるのは良い。</p>
<p>VII. 学生の受け入れ募集 (小項目 3 項目)</p>	<p>評価 4.0</p> <p>県内外高校へ募集要項の発送、県内高校への高校訪問、学校・業者主催の学校説明会 7 回実施し、80 名の参加があったが、受験生確保にはつながらなかった。昨年度、県内に 2 校看護大学が開校したため推薦入学者、一般受験者は昨年度よりさらに減少しており、今後、学生確保に向けた検討が必要である。</p> <p>学校説明会では、在校生のボランティア協力を受け参加者と交流する時間を設け、学校の雰囲気などを感じてもらっている。</p>	<p>評価 4.0</p> <p>学生ボランティアの協力を得ることは、在校生が自校の様子を外部へ発信することの大切さを感じる良い機会となる。在校生の学校の学びの中で感じていることを受験生へ情報発信してもらうことで学生募集につながるのではないかと考える。</p>
<p>VIII. 財務 (小項目 4 項目)</p>	<p>評価 3.5</p> <p>母体病院の経営は向上しているが、学校の収入源である学生数・受験者数が減少していることから、収入が減少している。県からの基金の助成を受けている。</p>	<p>評価 3.5</p> <p>問題なく適正に行われている。</p>

IX. 法令等の遵守 (小項目 5 項目)	評価 3.8	評価 3.8
	法令・専修学校設置基準等を遵守し適正に運営している。学生の個人情報に関して学年用・カリキュラム・実習用の HD を使用、鍵のかかるところに保管するなど対策をとっている	適正な運営がされている
X. 社会貢献・ 地域貢献 (小項目 3 項目)	評価 4.0	評価 4.0
	学校内でのボランティア活動、県内機構病院関係のボランティア活動については奨励・支援しているが、地域のボランティア活動については「上田わっしょい」などに参加している。今年度、長野県リレーフォーライフに 1 名参加している。次年度は、1・2 年生がボランティアとして母体病院が参加するリレーフォーライフジャパンに参加することを教科外活動に組み込んでいる	学生のボランティア活動を支援している
XI. 国際交流 (小項目 4 項目)	評価 1.2	評価 1.2
	学則細則の入学及び転入学の出願について外国籍の者に対しての手続き書類の記載はある。これまで需要がなく、また受け入れ体制が整っていないため、積極的な受け入れはおこなっていない。	外国籍の患者ともかかわることから、母国語の違う人たちとのコミュニケーションについて対応できるよう知識を深めていく必要がある。

## 2. 令和元年度 学校評価

### 1) 学生確保について

推薦指定校全訪問や学校説明会の実施、業者主催説明会の参加等募集活動を行ったが、受験生の確保にはつながらなかった。次年度に向け、指定校の推薦基準の見直し、学校説明会を 6 月より開始、一般入学試験時期を 2 回実施する計画をすすめている。また、受験生が当校を知るきっかけとして HP の閲覧をあげていることから、定期的・タイムリーな更新ができるシステムの構築し、実施していく。

### 2) 質の高い教育の維持・向上

学生によるカリキュラム評価・授業評価・実習評価を年間通して対象学生に実施した。その結果を、担当講師へフィードバックするとともに、学生の要望に対してもフィードバックし学習環境の整備に務めた。今後も継続して学生の意見を取り入れ、学習意欲が高まるよう学習環境を整えていく。

### 3) 母体病院及び機構病院への就職者の確保。

母体病院・県内機構病院の病院見学、学校主催病院説明会の実施、インターンシップ・ボランティアの参加等により、機構病院への就職者の確保につながっている。

### 4) 職務満足度の向上

積極的に授業研究を実施し、教員の教育力向上につなげている。今後は、実施後の振り返りの充実を図り、学び得た教授技術の活用を検討していく。

本年度は研究発表を実施することができなかつたため、次年度は研究発表が行えるよう計画的に取り組んでいく。